九曜文庫
文庫30
D124
5
早稲田大学図書館

題林愚藪

秋部二

月　秋月　初秋月　三月月　夕月
晚月　夕月夜　弓弦月　十五夜月　八月十五夜
十三夜　不知夜月　居待月　雨見月　廿日月
臥待月　待宵月　遲夜見月　月不出　月待山
月見月　月夜見　未出月　月澄月　月澄暮
待宵月　月澄月　月欲入月　曉惜月　深夜月
曉月　雲間曉月　曉天殘月　對山月　月出暮
秋夜對月　月欲秋　秋風月　深山月　山月
山月　山端月　山曉月　山陰月　秋月
嵐月　月照松　洞庭月　窓月　聖月明
松間月　野月　聖月　秋月　聖月明
聖月明　聖月照　野月秀遠　月夜　月
月　月照古樹　樹下月　月照流水　月夜
月　月照水　江上月　江曉月　月夜
水上月　江上月　江上月　月夜江水

昭和文庫

海月
淚月海雲
海色秋月
海月
月照海色
海月
月秋思
秋月
山居月秋
四季見月
秋心月
幽屋月
號海月
月每秋交
月交風
月家雪
月お代
月お思恋人
月羇中友
雪秋月

湖上月
海月
月照海色
海月
月秋思
秋月
山居月
四季見月
秋心月
松月遠
秋月女童
月送客
月お秋風
月家竹風
月お愛猿
海月嘯月
雪月漢文

湖上月海
海上月
海上嘯月
海月
古き月
山雪月
雪月
山月文鐘
四季嘯月
秋心月
松間月
見月意古人
海月
月お松風
月家雪
月お秋
月お秋
月家竹
月お愛猿
月お秋
雪間微月
對月思昔

湖色月
海色月
磯月
月不お秋
古き海月
山雪秋月
家居月
秋庭月
月浮山雪
松月お山
月為友
月不樓処
月お雪
月家流雪
月お眺望
係月客来
月お近思

浦月
海色月海
海月
秋恨月勝
古き嘯月
山雪嘯月
四季月
荒宅月
舟中月
竹月
月秋交
月お雪
月お茅屋
月家雪
月お雪樓
月多雪恨
對月情秋

秋部四

霧
山海霧
霧又面
秋浦
雲樓衣
紅樓衣
月下樓衣
山雪樓衣
菊
月照菊
菊常一霧
紅菊女雪
常逢客秋
樓紫衣風
紅紫風
紅紫遠霧
紅紫お樓

関霧
海海霧
秋雪
海四
嘯雪樓衣
源紅樓衣
風お樓衣
四季樓衣
山海菊
月照菊紅
霧嘯宵菊
紅菊霧芳
国九月業
秋紅紫
秋紅紫面
秋紅紫
霧紅紫
紅紫遠霧
紅紫お樓

海霧
海雲
秋海
秋四
四季秋與
連紅樓衣
樓衣紅嘯
海色樓衣
海色菊
月お菊
菊紅紫
晩風紅紫
芳秋菊
秋紅紫
芳紅紫
月照紅紫
紅紫樓衣

浦霧
稲雪
秋海
山中秋與
樓衣紅雪
紅海樓衣
星樓衣
海色樓衣
海色菊
菊紅月
菊紅霧
紅紫海面
紅紫面
紅紫一樹
紅紫海面
雪海深紅紫
深紅紫

海霧
秋面
海秋海
樓衣
樓衣雪眼
月お樓衣
雪雪樓衣
芳
菊映海
菊雪海
紅菊
紅雪庭雪
紅紫
紅紫
紅紫樓海
紅紫樓海

月

古今

金

同

已上月

千

同

已上月

新古

同

月こそはいかなるものぬしなるらん
月ぞかたるあくがれぬるこころの
ひとりぬるかたのこころにて
秋の月はいかなるものぬしなるらん
あまのかるもの
月ぞかたるあくがれぬるこころの
あれの山のわかれよりこそ
みるまくらよりかたりかたるこころの
秋なれば月のかたらぬこころの
山のこずえにかたりかたるこころの
月ぞかたるあくがれぬるこころの
秋のこころにかたりかたるこころの
秋の月ぞかたるあくがれぬるこころの
月ぞかたるあくがれぬるこころの
月ぞかたるあくがれぬるこころの
月ぞかたるあくがれぬるこころの
月ぞかたるあくがれぬるこころの

已上同
彰考雜
同

已上同
後撰拾
同

太宰大弐藤原為忠
摂政太政大臣
藤原定通法師
大納言経信
後京極摂政
前太政大臣
太政大臣
藤原為忠
園白左大臣
藤原資隆朝臣
権中納言藤原
左中将基良
権律師覚
中原師季
法眼法師
藤原氏朝臣
お園白
後京極摂政
お大政大臣
お新法師
法眼法師

月ぞかたるあくがれぬるこころの
月ぞかたるあくがれぬるこころの
月ぞかたるあくがれぬるこころの
月ぞかたるあくがれぬるこころの

続拾

月

月

月

新続

月

玉

月

已上月
後撰千
月

[illegible]

已上月
後撰拾
月
月
月
月
月
月
後拾
新千
月

秋月

初秋月
後撰拾

[illegible]

三月月　彰千　後拾遺　為親
夕月　月　後撰　為頼
晩月　金　後拾遺　為頼
名月　玉　後撰　為頼
月　後千　後拾遺　為頼
月　後撰　為頼
十五夜月　後撰　為頼
八月十五夜　今　後拾遺　為頼
十三夜　河　後撰　為頼
本和歌月　千　後撰　為頼
三日月　月　後撰　為頼
雨後月　後撰　為頼

秋月　月　後撰　為頼
秋月　後千　後撰　為頼
秋月　月　後撰　為頼
秋月　後千　後撰　為頼
秋月　月　後撰　為頼
秋月　後千　後撰　為頼

月出山　後千　後拾遺　新千　新拾

海秋月　玉

月清晴　同

俊平月　後古　後拾

海秋月　後古

歌入月　同

海月　金

晩月　新古

玉

新千

新拾

新後拾　風

春間晩月　新千

晩天時月　後二　後千

晩時月　新後

秋月　後古

林歌對月　同

月和秋　玉

秋風月　風

對山待月　金

山　新古

後後拾

後拾

後後拾

後千

風

新千

山端月
深山暁月

山路月

嵐月

嵐月無松
澗底月

松月

岩間月

雲月

新拾
新後拾
千
新古
新後撰
後拾
新後拾
同
新拾
遠仁元十四
千
新後古
後出家
玉
新古
後古
新後撰
新千

新後古
後古
新千
新後拾
玉
新後撰
同
後拾
玉
新後拾
金
新後古

新後古
後古
新千
新後拾
同
新後撰
新千
新古
新後古
玉
後拾
新後撰
同
後拾
玉
新後拾
金
新後古

新後古
後古
新千
新後拾
同
新後撰
新千
新古
新後古
玉
後拾
新後撰
同
後拾
玉
新後拾
金
新後古

湖

湖上月

湖上月

浦月

海月

海上月

海上月

海上月

海もこぎ秋月　彩古
同
彩勅
彩後
続後撰
彩拾
月隠海もこ
海上晴月
後撰
後月
後月
後月
浮月
後月
月こそ秋
秋後月隠
月紀忘
後拾
彩古
後千
後撰
後拾
後千
彩千
彩後
後拾
彩古
後千

月
玉
彩後古
玉
後拾撰
玉
後古
千
彩古
彩勅
後千
後古
星月
山家月
彩勅
後千
風
彩古
彩古
山家秋月
玉

彩千
同
九重の雲乃秋の月
彩後古
玉
後拾撰
まこと乃秋の月
後古
千
彩古
彩勅
後千
後古
星のかつら
秋乃月を
後千
風
彩古
彩古
山里は月
玉

ふるの月
ふるの月
ふるの月

山の端の月　金
山の端月　新千
月出の遅　後拾遺
月出の遅　後拾遺
月出の遅　後拾遺

後拾　いそのかみふるき道のまうらやの杜風は神ぬしのとさむらひ
新後撰　さとりのまとよ山田に実とりて月見むしるの人の杜
新後拾　宮ちかく山田の原のいるむしろ月見むとてこそ
千　さえこそ人はやすらへ
同　ふるはらのそこ
新後拾　月にたなびきまされる杜の
千　四十五年の八月十五夜の月をよめる　藤原
久方の雲まなく月はさえ
月見む人はやすらへ
雨後月　月見むとて待ちし人の
新千　吹くさとふるあの風は
新後拾　杜の森のひとひとしてもの
後千　久方の空よりまつ杜の月
新後撰　雲なく
月不撰題　月の
後千　月をのとなりの
新後撰　月見むとて
新後拾　待出る月のあらしの
後古　もしむ月の
後拾　山のもとの
月あ風

後拾　いそのかみふるき道のまうらやの杜風は神ぬしのとさむらひ
新後撰　さとりのまとよ山田に実とりて月見むしるの人の杜
新後拾　宮ちかく山田の原のいるむしろ月見むとてこそ
千　さえこそ人はやすらへ
同　ふるはらのそこ
新後拾　月にたなびきまされる杜の
千　四十五年の八月十五夜の月をよめる　藤原
久方の雲まなく月はさえ
後千　月見むとて待ちし人の
新千　吹くさとふるあの風は
新後拾　杜の森のひとひとしてもの
後千　久方の空よりまつ杜の月
新後撰　雲なく
月不撰題　月の
後千　月をのとなりの
新後撰　月見むとて
新後拾　待出る月のあらしの
後古　もしむ月の
後拾　山のもとの
月あ風

月あ杜風　王　新後撰　ひとりをとこ山乃をとこ
後拾　ひとりをとこ山乃をとこ
新後拾　月のこころ
王　月やとも
月あ杜風　新古　月八杜
同　月のこころ
新後撰　月の
新千　吹くとふ
新後拾　月の
月あ秀　風　新後撰　月のこころ
新後拾　風
月の草秀　後古　月のやとり
月草書　後拾　月のやとり
月あ祈風　王　新千　月のこころ
同

月あ杜風　王　新後撰　ひとりをとこ山乃をとこ
後拾　ひとりをとこ山乃をとこ
新後拾　月のこころ
王　月やとも
月あ杜風　新古　月八杜
同　月のこころ
新後撰　月の
新千　吹くとふ
新後拾　月の
月あ秀　風　新後撰　月のこころ
新後拾　風
月の草秀　後古　月のやとり
月草書　後拾　月のやとり
月あ祈風　王　新千　月のこころ
同

月の明　後鳥羽院
月やうさてこのねぬれぬをとこの袖にうつれる月の影かな　新古今
月の雨　後拾遺
わすれてやこよひの月の雨とのみ袖にうつれる月の影かな　源俊頼朝臣
月の雲　後拾遺
くもりなくてらす月やはうきくもの雲のまよりもれいでぬるかな　伝実教卿
月の雲　後拾遺
うたがはしくもりなくてらす月の雲のまよりもれいでぬるかな　新古今
月の雲　後拾遺
このよ月の雲をうらめしくはらはばとてそらにうかべる月の雲かな　後鳥羽院
月の晴　後拾遺
雲はらはばとてこそ月はうかべるなれ　太上天皇
月の晴　後千
わすれがたきこのよ月の晴れまにはいつかはまたの世の月をまつ　井上内大臣
月の雲　新後拾遺
秋の月山のはくもりなくてらす雨のこのうらにはなれぬ　藤原為家
月の雲　後拾遺
いとはるくもりなくてらす月の雲のこのうらにはなれぬ　後二条院
月の雲　後拾遺
なれぬれのうきこのよ月の雲のこのうらにはなれぬ　後二条院
月の雲　後拾遺
うらにはなれぬれのうきこのよ月の雲のこのうらにはなれぬ　後二条院
月の雲　後拾遺
おもふ人ことにひとしき秋のよは月てしてとしてまつ　後二条院
月の雲　後拾遺
ひとりなるあてのこやあるさしてうるやとてきて山の月の雲　後二条院
月の雲　後拾遺
むしてのくまなき月の雲とてうらにはなれぬ　後二条院

月の月　後拾遺
月のうさの月の雲はさとりてあまのつりぶね　後二条院
月の月　後千
なのめなる秋よりはいとあはれなる月をてあるとしなる　後宴御歌
月の延思　後拾
月のうらにはなれぬ秋の月をてあるとしなる　後宴御歌
月の惜秋　新勅
月のうらにはなれぬ秋の月をてあるとしなる　後宴御歌
月の月　新後拾
秋の月山のはくもりなくてらす雨のこのうらにはなれぬ　後宴御歌
月の月　後拾
月のうらにはなれぬ秋の月をてあるとしなる　後宴御歌
月の月　後拾
月のうらにはなれぬ秋の月をてあるとしなる　後宴御歌

題林愚抄第十一
秋部四
月
千
夕月夜秋のあれとこのこんなりいろ紙よ春のとなりの
正
ふるとしのわくるをの春のそのまてふりてふるく秋のそのそ
後千
ふる春をもとく春のそのはくれよりそのるる神よ春をのこして
同
うつひまてくふりとてふる山人のためくるくの人のなくる
後古
月のいく程をさくわくるくはるくはるくは

同

後拾

同

同

同

秋田

新拾遺二四七合

同

同

新千

新拾遺

後千

新後拾遺

同

新千

新後拾遺

同

新後拾遺

建保二四七

秋夕雨

後千

後拾遺

建保二四七合

同

同

秋山

新後拾遺

建保二四七

秋水

天象に有る

信西入道

藤原俊成

伏見院

山家

藤原俊成

伏見院

有家

花園

三位法皇

為尹卿

秋風乃ゆくゑ

秋の風乃ゆくゑ

秋の風乃ゆくゑ

秋の

同
同
同
新古
後古
後撰拾
新後拾
同

已上同
春山霞
春の山霞

夕されば野辺の秋風身にしみて鶉なく深草の里
夢ぢかよ野辺の秋萩しをれぬる色なき風に
きぬぎぬの別れ惜しむ鐘の音に
秋の田の穂波しらぬ恋もする
とぶ鶴の雲ゐ遠く
秋の田の刈り残されの
秋の田の刈り残されの
秋の田の刈り残されの

擬衣

同　こゝ[illegible]山秋の[illegible]ものくさ[illegible]
新千　建長二　[illegible]
拾遺　[illegible]
千　[illegible]院百首　[illegible]
同　[illegible]
新古　[illegible]
後撰　[illegible]
同　[illegible]
同　[illegible]
新後撰　[illegible]
後千　[illegible]
王　[illegible]
後拾遺　[illegible]
新千　[illegible]
同　[illegible]
同　[illegible]
同　[illegible]
後撰　[illegible]
同　[illegible]
同　[illegible]
新千　[illegible]
同　[illegible]
後撰　[illegible]
同　[illegible]
同　[illegible]
新後拾遺　[illegible]
同　[illegible]
臣上同　[illegible]

寄擬衣

永徳元年　同　康暦二年　同　　藤原撰　同　同　　後右　同　同　　新千　後千　同　同　　新拾　同　　新勅　康応元年　同

秋さむなるころ　ふるのゝ乃秋風よ　そのゝ乃ゝ　ゝ乃衣　ゝ乃衣　ゝ乃衣

同

後撰千

新撰

同

新撰

同

後撰千

同

同

後撰千

同

同

後撰千

同

同

新撰

同

同

同

同

同

同

同

同

新撰

同

同

同

新勅

後千

後撰

同

同

一説 実説

出象

貸見院

故三条内大臣

後新

民部卿為家

後二位殿

法中仲教

実教卿

為有卿

源具行卿

北宗先君

後大納言為氏

無山法

後撰

後撰法師

行教法師

為家

為定

後法隆卿

中国入乃

大内大臣

後鳥羽院

後同二月実

小子ね

法眼源承

為信公実伊

実教

為氏

平時房

月下搗衣

風前搗衣

野辺砧

山路搗衣

田家搗衣

海辺搗衣

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

同

新千　千年の秋の月をもてあそびてこの酒をすすめ
後拾遺　遠き六条山の石ふみ
古今六帖　年をへてこの酒をすすめ
同　なにはのうらのこの川のみなそこにすむらんかぎりつきぬべしとぞ
同　わがやのいけのこの酒をすすめ
同　ながきこころのつきぬべしとぞ
金　ながきこころのつきぬべしとぞ
同　ながきこころのつきぬべしとぞ
千　わがやのいけのこの酒をすすめ
同　ながきこころのつきぬべしとぞ
同　ながきこころのつきぬべしとぞ
新千　ながきこころのつきぬべしとぞ
同　ながきこころのつきぬべしとぞ
新拾　ながきこころのつきぬべしとぞ
新千　ながきこころのつきぬべしとぞ
同　ながきこころのつきぬべしとぞ
新拾　ながきこころのつきぬべしとぞ
同　ながきこころのつきぬべしとぞ

菊

新勅撰　うつしうえしきくのはなのうつろひにけりとのみ
同　ながめくらしてはのうへにおきてはのうへにうつりてはのうへにうつりてはのうへにうつり

永和元年九月廿五日
同
同
永和二年九月廿五日
同
後拾遺
同
延久二年九月廿五日
同
永和二年九月廿五日
同
同
同
同
元徳二年九月廿五日
同

白菊

白菊

菊映月

月照菊

白菊

白菊

菊

菊

菊の花　永仁二年九月十日
同　後千
雜菊　同
雜菊　同
雜菊　同

同　　精傷正異書
同　　方松門院
続後拾遺　　内大臣
同　丈　　不知
同　　大江公重
あらし　　お関白
同　　実兼公
同　　後光
同　　西園
同　　後拾遺三条
同　　不知
右　　後伊法師
同　　天台
要抄　　為時
同　　為兼

夕日うつる河面にうつる秋山乃ちりかたとなるとなり　右大臣
おりしもうつる河面をいそぎ渡るものの袖ぬれぬ　雅冬卿
河面をうつる夕日の影をうつしてゆくかぜ　実綱
秋の夜の山のこずえにうつる月影をうつしてゆくかぜ　為宗卿
ひとり河面をうつしてゆくかぜ　原和貞卿
同　　西園
新千　　為忠
新続後拾　　為忠
同　　為忠
同　　為忠
同

[illegible]

[illegible]

[illegible]

山記塗　玉山　同　新後拾　後古　後千　同　伏見院　同

きさらのまのさうりうの行ひやうの河あるしるしの山のそこ
河あるしるしの乃くへの秋風のあへもちくこの乃紅葉ハ
日にそへてかすそ深されはのくこ春雨の乃くさなる山のうちの
春雨乃くさなる山のうちの乃紅葉ハ
あかつき源の乃ふかくさ紅葉の乃たちはなの
あのこゝろのいとのむし河あるしるし乃みをおくぬ日そなる
なるめをとをとちの紅葉ハ
ゆ〻しかるへ〻この乃紅葉のタ〻
あるやうに〻〻てゝとめられせを秋をおもふ紅葉もりる山の
乃ちすてゝ花ハ河あるしるしの秋の山の
秋山乃ちりしよりさ秋乃えのこと紅葉乃・紅葉ぬるうら
一〻かゝ春のそめ〻山のうへ乃まこと河あるしるしの
秋よりやうりうの山乃うへ紅葉河あるしるしの
めろ河あるのねの夕日をこをとをしこ乃をこ
秋のことをひ一〻山乃まのまちのうへ乃ひとる紅葉をとる
ゆをそぬと山の秋のうへ紅葉河あるしるしの
河あるゆくをこ乃ようそうの紅葉ハ夕日よりをむろの紅葉

法京仲光　め奈法師　俊子内親王　順　あ尼大臣　後三条院　藤秀　隆祐　新院　お園白　雅　公乃を四大臣　左大臣　平五　ゐ世〻　ゐ乃〻　み〻基〻　隆義〻　雅孝卿　永福門院

巳上同

玉山紀塗　後拾

同　新後拾　新拾　玉葉　乗発　玉葉　同　拾紀塗　同　玉葉　乗発　玉葉　同　巳上同　玉葉　新後拾　乗発　玉葉　同　紀塗　後撰拾

紅葉の乃ふかくさ乃ちりしよりの秋乃山のそこ
秋乃山のそこ
夕日をこをとをしこ乃をこ乃ちりしよりの
秋の夕乃花よりのうへ乃ちりしよりの
紅葉の乃花よりのうへ乃ちりしよりの
秋の夕乃花よりのうへ乃ちりしよりの
ちりしよりの秋の山乃うへ乃ちりしよりの
いろのみてゆをそてたをそんの乃ちりしよりの
ゆをそひ乃花のうをてをそのめ乃ちりしよりの
山川のうへ乃ちりしよりの
つ〻こ一〻のうへ乃ちりしよりの
山ほ乃ほ乃ちりしよりの
ほのこ一〻の花乃ちりしよりの
ちりしよりの花乃ちりしよりの
花ちる川のうへ乃ちりしよりの
山根の紅葉乃ちりしよりの
みをこの乃ちりしよりの
秋の夕乃花乃ちりしよりの

又雅　後拾　藤原　二条院　加賀　ゐ乃　法親王　隆親　秋乃　隆祐　雅西　那氏　重雅　雅経　左大臣　平五　お園大臣　ゐ数　ゐ乃　十条院　ゐ　持方　ゐ　実雅

同十六
続古
続千
伏見院御宸筆
千
同
同
同
新勅
為家卿
古今
続後撰
為家卿
新後撰
為
同
続後撰

ちそらの月のさやかなるかなとうたへるを
おなじくこの月のもとにてかりのつかさのかんさ
おなじくこの月のもとにてかりのつかさのかんさ
ちらぬ秋のこのしたかぜはあはれにもあるかな
山ぶかくはるかにこのそのもとにてかりのつかさ
ゆきかへりこの園よりはるかにそのあたりにあ
ふるかんさせたまふ所はいとかなしくかなしき
なりとてこのかんさのこと思ひいでたまふ
ありしの一芸の花乃花ゆくのこのかんさ
おぼしきこのおぼしめしてこのかんさ
山ぶかくはるかにこのそのもとにてかりのつかさ
ありしの一芸の花乃花ゆくのこのかんさ
おぼしきこのおぼしめしてこのかんさ
秋ふかくぬれしかみしもとにてかりのつかさ
むかしもかくの時あるもとにてかりのつかさ
ふるさとにてこのかんさのこと思ひいでたまふ
ふるさとにてこのかんさのこと思ひいでたまふ
うりめ秋の日数ふるとてこのかんさのこと思ひ

後撰
為中納言実任
公雄
後拾遺
為中納言実任
公雄

彰動
同
後千
後拾
彰千
後撰集
前
[illegible]
[illegible]
彰拾
後拾
千
後撰の遺拾
異本後撰遺拾
前
玉十四
前
後拾

九月

金
千
同
同
彰動
同
後撰拾
後拾
同
同
彰千
後千
同
彰拾
彰千
同

同　いそのかみふるのあさぢをうへてとまるあしひとしたはさくらさん　平一宗祇法下
同　ゆてしらぬ秋の初をかさうさんをうへぬとうへぬうへうん　こ政
彩秋　これとうの雅乃うへてことわをとやうん純よ滅乃秀とのうて　肉大臣
雅別隠　ふのこと雅をうこれうるしこれ花の本のこれちうに花を　五宴
同　人のうへやうこうのうへうへうへうへ秋のうへ　歌仲
同　楚こそうこうりうしれ神めれうひうこうもうこうる秋のうな　長後
同　今ようこうる色やうこそううこれてめうのひまの秋乃花の　河内
同　うこ乃ゆうこうれうへ秋をとまうへうこううこうこうこうこ　後嵯
彩秋　これうこうこうのうこうこうのうひうこうへ秋をこそ秋のうこうなれ　同
同　ようくこうるまう花乃雲をうこうこうれうへうへ秋のうこうこ　注歌を
同　ひ秋乃をこんこうこうふうこうこうこうへうへうへうへ　お大臣
同　いうようこんこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ　弟内大臣
同　つく秋のうこれぬうこ神こうこうこうこうこうこうこうこうこ　基豪
同　とうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ　ひ弟法下
同　ひこの乃ようこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ　こ会
彩秋　こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ　ち宴
彩秋　山乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　天宴
同　これこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ　弟法下
同　こうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこうこ　為民法下

三月　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　少納言内侍
彩秋　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　弁内侍
彩秋　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　昭光
同　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　右大臣
同　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　実教卿
同　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　経任
同　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　為家
同　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　雅経
同　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　天宴
彩秋　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　為定卿
彩秋　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　為氏卿
同　乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃乃　為世卿
同

九月尽
終夜惜秋
九月尽竟
閑九月尽

彩古

分かゝへていとゝ秋を押しこかんとすれども春の命を
こゝ海しぬ秋の月数ふるあるよりとゝ海こゝろてとゝ
ゆけりそのゝとまりんこれ花ようくもとゝ秋ようゝ
とゝめ天今のゝ春ぬるゝ時のゝとゝこゝろの秋ゝこゝろ
立てゝよのゝとゝ海こゝろてとゝ海ぬ秋の物の哀りを